

第6章 地域支援プロジェクトに関する活動報告

1. 学会発表

2014年8月、横浜で開催された日本心理臨床学会第33回秋季大会にて5つの演題でポスター発表を行いました。

(1) 発表演題

1. 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 (5)
－自律的学習の促進を目指した実践型教育－ (筆頭発表者：土岐)
2. 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 (6)
－大学院生の非職業的感覚を活用した臨床心理学的地域支援の「実践」と「教育」の取組み－ (筆頭発表者：服巻)
3. 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 (7)
－MICTの心理検査実習への教育的応用－ (筆頭発表者：小澤)
4. 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 (8)
－小規模中学校における大学院生参加型コミュニケーション・プログラムの実践1－ (筆頭発表者：松浦)
5. 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 (9)
－小規模中学校における大学院生参加型コミュニケーション・プログラムの実践2－ (筆頭発表者：金坂)

今年度はこれまでで最多の5題の発表を行い、学会発表当日は、多くの参加者を集め、活発な意見交換がなされました。

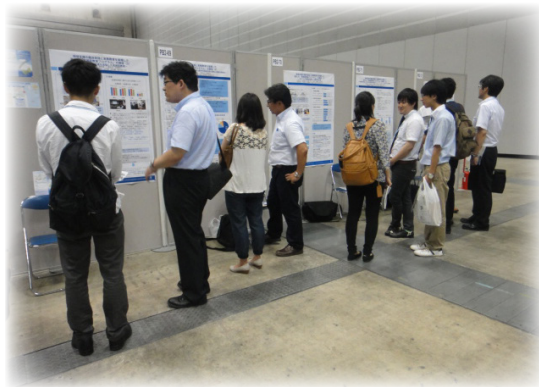
(2) 発表時のディスカッション内容 (一部抜粋)

【参加者からの意見や質問】

- ・(地域での支援活動を体験することで)学生の自信が上がりにくいのは、実体験としてよくわかる。
- ・学生同士が互いのモチベーションを上げていると感じる。
- ・MICTについて通常の検査陪席との効果の違いはどんな点があるのか？

【スタッフからの回答】

- ・スタッフが画像を見ながら解説することが出来ること、学生同士が相互に中継を観察し合い意見交換が出来る点など。



ポスター会場での質疑応答の様子

2. 大学院生への活動報告会

2014年6月18日、臨床心理学研究科の大学院生を対象とした地域支援プロジェクトの報告会を開催しました。報告内容は、地域支援プロジェクトの概要、2010年度から4年間の活動実績、ならびにこれからのビジョンと活動予定を紹介しました。

活動実績からは、地域支援活動に大学院生も積極的に参加してきたこと、地域支援活動への参加が就職につながった修了生のケースも紹介されました。また、海外視察報告もなされ、幅広い地域支援プロジェクト活動が紹介されました。

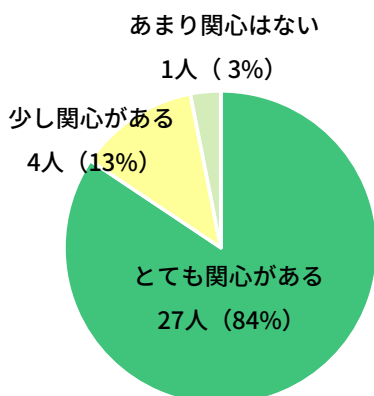
さらに、活動経験のある大学院生からの実体験の紹介から実務経験の意義が語られ、未参加の大学院生からはこのような地域貢献の活動を知る機会と参加しやすい工夫を行って欲しいという要望があがりました。

【参加学生からの意見・感想】

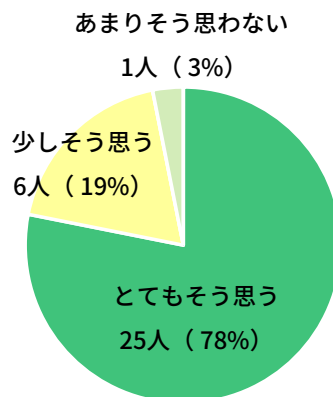
- ・地域によって求めるニーズが異なると思うので、相手のニーズに応じた支援は何かということを通して考えていく力を身につけていけたらと思いました。現場で求められていることは何かということを知りたいです。
- ・相談室でクライアントさんが来るのを待つスタンスとは異なり、こちらが現場に行き支援活動を展開するスタンスが印象的でした。



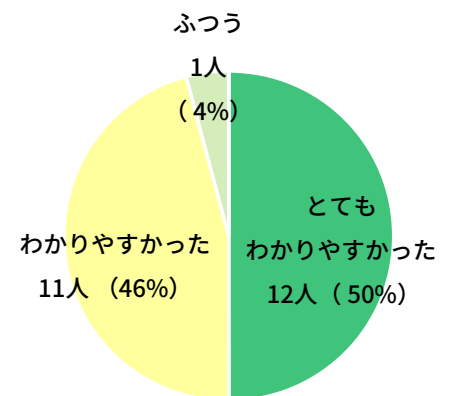
大学院生への報告会の様子



活動にどの程度関心を持ちましたか？



活動に参加したいですか？



報告会はわかりやすかったですか？

3.

日本臨床心理士養成大学院連絡協議会 第2回FD研修会

2014年12月6日に日本教育会館にて行われた日本臨床心理士養成大学院連絡協議会第2回FD研修会「臨床心理実習指導の改善策—教員は何をするのか?」において、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科からの話題提供として、地域支援プロジェクトに基づく「地域連携を視野に入れた臨床心理実習の取り組み」を報告しました。

当日の参加校は約70校でしたが、我々のプロジェクトチームがこれまで行ってきた地域支援の実践に対する関心は高く、多くの質問を受けました。

特に、地域支援の実践が地域連携を軸としつつ、効果的な臨床心理学的援助の方法の開発や、支援システムの構築、学際的な『実践型教育プログラム』の開発へと段階的に発展してきている活動内容に対して大きな反響がありました。地域支援プロジェクトの活動をもとに、新しいタイプの臨床心理実習のあり方を提示することができました。

指定討論者である京都大学大学院の皆藤章教授からは、旧来の密室型の臨床心理実習の形から、デリバリー方式で大学院生とともに地域に出向き、地域文化の特性に応じたニーズを拾い上げて臨床心理実習を行う試みは、高く評価できるとのコメントを受けました。またフロアからは、MICTを使っての地域と大学との双方向的なやり取りに基づく実践的な臨床心理実習の形態が、教育効果の高い実践型教育として、今後各地域での臨床心理実習として体系化されていく可能性を秘めているとの意見もいただきました。

今回の報告を通して、「地域文化を視野に入れた心理臨床ができる人材を育成する」という教育理念を具現化する、『実践型教育プログラム』の開発は、新しいタイプの臨床心理実習を模索する全国の臨床心理士養成大学院にとってのスタンダードモデルになり得るものと実感させられました。

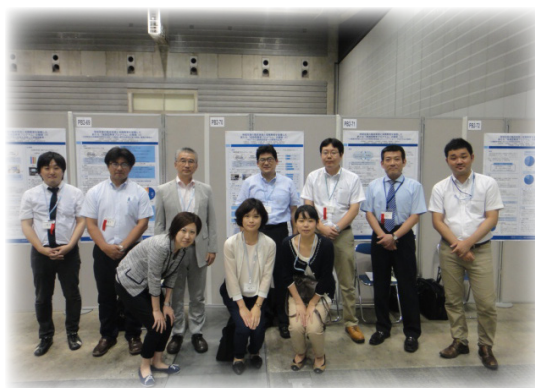
三位一体型教育
(講義・演習・実習)

+

セルフ・ラーニング型教育

MICT・教育コンテンツ・リテラシーを通した

- 共同参加型のチュートリアル教育
- ヴァーチャル参加型の臨床実践教育
- 参加型学習によるリアリティ向上
- 聴視覚教材を活用した臨床技能教育
- 個人の学習ペースに沿ったオンデマンド学習



プロジェクトスタッフと学生も交えて